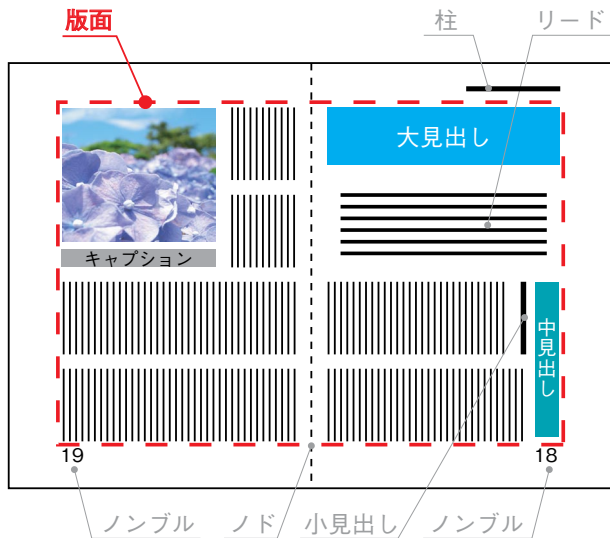




版面

はんめん



概要

版面（はんめん、はんづら）とは、本来は印刷物において印刷がほどこされる範囲全体をいいますが、現在ではおもに書籍や雑誌などの紙面で、本文など内容部分が印刷される範囲をいいます。この場合、ノンブルや柱といった副次的な要素は版面の周囲の余白に配置されます。

版面の大きさは、文字を主とした内容の場合、文字の大きさ、1行あたりの字数、字間、1ページあたりの行数、行間をもとにして決定されます。逆にパソコンのワープロソフトやDTPソフトでは、用紙に対する余白の大きさを設定するかたちで版面が先に決定され、字数や行数は自動的に処理されるのが一般的です。

版面をどのように設計するかは、読みやすく美しい印刷物を制作するうえできわめて重要な点であり、そのため、適切な版面のあり方についても、多くの考え方が示されています。とりわけ欧文の書籍については、ウィリアム・モリスによるものをはじめ、さまざまな説が歴史的に蓄積されています。

一般的に書籍では、地（下部）の余白が広いと視覚的に安定感があり、また見開きにした場合に中央のノド（綴じられた側）の余白は一体にとらえられることから、紙面上の版面は天とノドに寄せて配置するのが良いとされますが、書籍の性質や用途、デザイン上の意図によるところが大きく、決定的な規範はありません。

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字